

平成29年度 平井保育園事業報告

1. 概要

①運営報告

- 平成29年度も昨年同様、職場復帰で途中入園を希望される保護者が多く、満年齢で1歳の子ども（0歳児支弁）が5名途中入園しました。年度末には0歳児で待機の子どもが15名になっており、平井保育園では次年度に向けて0.1歳児の待機児が多い現状でした。
- 今年度の課題として、乳児保育に力を入れていきたいと考え白鳩チルドレンセンター東大阪で学んだことを現場で実践していきました。子どものそばに近づいて声をかけることや、子どもの目線で褒めるなど子どもと向き合う姿勢は身につけてきたものの、応答的な会話になるように内容を意識することについては、今後も継続して伝えていきます。また、発達の連続性を考え、保育園全体で子どもを育てることをより意識し、職員同士が意見を言い合える体制を整えていくことが今後の課題と考えています。
- 保育士パートの比率が増加している現状ですが、「保育の一日の流れ」を基に各クラスの中で話し合い確認し、職員会議で伝えました。また、園長、主任が保育現場にも入り、具体的に指導し理解を深めるよう取り組みました。

②定員 120名 園児数133名（3月31日）

③事業日数 362日（うち休日保育59日実施）

④開園時間 平日 7:00～20:00 休日 8:00～18:00
土曜日 7:00～20:00

⑤保育時間 早朝保育 7:00～8:30
通常保育 8:30～18:00【標準時間認定】
8:30～16:30【短時間認定】
延長保育 18:00～20:00

⑥職員数 園長 1名、主任保育士 1名、看護師パート 1名
保育士 17名（うちパート保育士8名）
子育て支援担当保育士 3名（うちパート保育士2名）
延長保育担当保育士 3名（うちパート保育士3名）
調理員6名（内パート職員4名）
嘱託医（松山市の指定による）内科医 1名・歯科医 1名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・

発達の援助を行います。

②保育方針

- 子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 保護者との信頼関係を築き、安心して預けられる保育の場を提供する。
- 地域における子育て支援のため、保育に関する相談や助言の役割を果たす。

③保育目標

- 1、心身共に健康な子
- 2、友だちと助け合える子
- 3、自分で気づき、考え、行動できる子
- 4、まわりの人にも自然にも優しい子

④クラス体制

0・1歳児	24名	保育士	5名（うち保育士パート3名）
2歳児	23名	保育士	4名（うち保育士パート1名）
3歳児	27名	保育士	2名（うち保育士パート1名）
4歳児	29名	保育士	1名（4、5歳児フリー保育士1名）
5歳児	30名	保育士	1名
合計園児数	133名	保育士	14名
主任保育士	1名		
延長保育担当保育士	3名		（うちパート保育士3名）

⑤保育内容

- 乳児クラスは、ゆるやかな担当制のもと少人数での活動を実践しました。子どもの近くで一つひとつできたことを一緒に喜び合って褒めることや、楽しいと共感できるあそびを取り入れることで保育士との距離が縮まりましたが、子ども達の会話が広がっていくような関わりや応答的な対応は十分とは言えず、今後も現場において確認していくことが必要です。
- 0.1歳児クラスは給食をよく噛んで食べる習慣づくりをするために、保育士1人に対して子ども3人での食事をするようにしてきました。噛むことへの意識が高まっているので、引き続き実践します。
- 2歳未満児の運動量を上げ、共感的に運動遊びを進めるために、安田式運動遊具や巧技台を使ったり、近隣への散歩を取り入れました。
- 並んで待つ、順番を守る、物を大切に扱う、人への挨拶を丁寧にする、大きな声を出さないなどの基本となる約束事を伝えるにあたっては、職員間での意識に差異が見られたため、確認しながら今後も伝え続けます。
- 「保育の一日の流れ」を各年齢で見直したことで、見通しを持って計画の立案ができるようになりました。また、日常の保育の中に導入や準備を計画的に取り入れたことで、子ども達自らが考え、それぞれの行事に応じた目的が達成できました。
- 幼児クラスの「石井式漢字教育」では毎日の繰り返しのなかで、子ども達が正しく発音できているか確認していくことが十分でなかったため、今後はしっかりと意識していきます。

- 「音楽あそび」では、専門講師に学びクラスで繰り返し反復することできれいな声で歌うことや周りの音を聴いて演奏することなど意識することができ保育士と一緒に楽しむことができました。
- 幼児クラスの毎朝の「意味ある運動」では、しっかり身体を動かして活動することで前夜の家庭での脳内ストレスを発散し落ち着いて一日の保育に入れるようになりました。今後は、さらに適切な援助をし、子ども達がより意欲をもって取り組めるようになるためにも、ジャクパ四国の講師による指導や安田式運動あそびの講習からも学んでいきたいと考えています。
- 全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」を使用し年間計画に沿って指導を行い、保育の場面でも子ども達と考える機会を設けました。
- 食育年間計画を作成し、子ども達に給食の食材や季節の野菜について知らせたり、野菜の栽培や調理活動を通して「命・食の大切さ」「マナーを守ることの大切さ」等を指導しました。また、乳幼児期からしっかり噛むことの大切さを保護者にも伝えました。

⑥家庭との連携

※家庭訪問（新入園児のみ）、個別懇談（年1回）、就学前個別懇談（1回）

保育参観（年1回）、保育参加（年1回）、クラス懇談会（年3回）

- 家庭訪問や個別懇談では、それぞれの子どもの成長や発達について伝え、保護者の意向も聞き取った上で、個々の目指す目標について共通の理解が持てるようにしました。
- 保育参観日は年齢に応じて制作やスキップ遊びを楽しむなど保護者も参加できる活動を取り入れたことが好評でした。保育参加（85%の参加率）やクラス懇談会においてクラスの取り組みや保育内容について理解を深めてもらうように取り組みました。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、乳幼児期における睡眠時間や食事の大切さ、夕方の運動の必要性など、クラス懇談会を通して保護者に引き続き伝えていますが、今も改善できていない保護者もあり、継続して啓発することが必要です。
- 年長児は、就学前個別懇談を行い、就学に向けた取り組みと子どもの様子や課題について話しました。発達が気になる子ども3名が教育相談を受け、その他の子どもも小学校と連携することで、安心して就学を迎えられるように引継ぎをしました。
- 配慮を要する子どもや保護者を松山市児童発達支援センターに繋いだり、療育センター受診を進めたりし連携して支援に取り組んでいます。また、保護者と機会を見つけて話し、個々の子どもに適した援助をするようにしています。

⑦人材育成

- 「保育の一日の流れ」が各年齢の子どもの発達に即しているか、少人数のグループ保育が各年齢で行え、落ち着いて過ごせているかなど確認するために、園長、主任が保育現場に入り、クラス担任とも繰り返し話し合いました。今後も引き続き見直しをしながら確認をしていきます。
- 保育園全体で子どもを育てていくために、クラスを超えて話しができる体制づくりを、より充実させたいと思います。現在実施している昼礼での意見交換や毎月の職員会議での保育の振り返りと共に、クラス間で意識を高めていくための話し合いを実践していきたいと思います。
- 研修計画に沿って園外での研修を受講しました。（主任保育士研修会・0.1.2歳児保育研修会・中堅保育士研修会・発達支援保育研修会・人権研修・給食担当者研修・給食担当研修会・要保護児童対策研修会など）
- 園内研修（石井式漢字教育、アレルギー対応、救急救命、SIDS、感染症対応、不審者訓練など）

を行い保育内容の充実や危機管理意識を高め安全性の確保に努めています。

- 子育て支援担当者は、「松山市子育て支援拠点事業連絡会」で地域のニーズを把握し、「子育て支援事業研修会」で学んだ専門知識等を、地域の子育て中の家庭に伝えていくようにしました。

⑧地域の実態に対応した事業

●地域子育て支援拠点事業

- ・地域集会所2ヶ所と公民館1ヶ所での「ひろば」を実施しています。保育内容の充実を図り、遊びの場の提供だけでなく、保護者が抱える悩みやニーズを受け止めながら、子育て力を高めていけるように関わりました。
- ・育児相談(随時)、赤ちゃん広場(月2回565人)、子育て講座(月1回284人)、親子教室(月3回178人)、園庭開放(週1回481人)、出張保育(月1回27人)、地域集会場での「ひろば」(3ヶ所864人)を実施しました。また、今年度は玩具や絵本の充実を図ったため、貸し出し絵本も増えました。
- ・園庭開放時に保育園行事参加、園児や地域の方との交流、保育園体験での給食試食や保育園についての話しなど取り入れ、より保育園を知ってもらうための機会づくりに努めました。
- ・「赤ちゃん広場」は利用人数が多く、民生委員と関わる機会を作り、子育て中の親子が様々な人たちと関わりながら豊かな生活ができる環境づくりに気をつけていきました。
- ・活動については、ホームページ掲載や、ポスター掲示に加え、チラシ等を支所や公民館、銀行、小児科などに設置しました。利用者の中からは、ホームページでの問い合わせが多くなっている現状です。
- ・子育て通信などのお便りでは、ペアレンツメッセージから見えてくる保護者の要望や現状で必要なことを発信するよう努力し、多くの子育て家庭が参考にできるように考えてきました。

●地域とのかかわり

- ・地域の小学校の保育園訪問や中学校の職場体験を積極的に受け入れ、交流を図っています。
- ・年長児が高齢者施設「梅本の里」「安心ハウス仙波」との交流や施設訪問を引き続き行い(年5回程度)触れ合う機会を持つことで思いやりをもって接したり、喜んでもらう経験をしたりしました。
- ・年長児は近隣幼稚園二園と「ふれあい交流会(年3回)」をし、就学児の顔合わせの機会を持っています。また、地域の文化祭や祭りにも参加し、地域の方に保育園の活動を知ってもらう良い機会ととらえ取り組んでいます。

●小学校との接続

- ・年2回の保幼小連絡協議会での意見交換や園児の引継ぎをしっかりと行いました。また、近隣小学校の行事参加や授業見学も実施し、保育園の様子を見学に来てもらう機会も設け、小学校と連携を図り、移行がスムーズになるようにしています。
- ・今後はさらに、保育園で行っている様々な活動を見て頂くことで、集中力や協調性けじめのある態度や忍耐力を育て、就学してからの「学ぶ意欲」につなげていることも、より理解してもらえるような取り組みをしていきます。

⑨苦情処理

- 第三者委員(主任児童委員2名)を設置し、苦情受付担当者を主任保育士、苦情解決責任者は園

長とし、上がった問題については早期に解決するように努めてきました。

- 保護者から上がった苦情が担当者からすぐに伝わったことで、すぐに保護者と話し合いの場を設け解決した事例もありました。今後も園長、主任と職員間の報告、連絡を積極的に行うよう意識を高め、苦情につながる出来事に早く気づく体制づくりをします。

⑩リスクマネジメント

- 計画的に職員の安全や保健に関する研修（危機管理訓練、救命救急、感染症、SIDS、アレルギー対応について等）を行いました。また、他園の事例やヒヤリハットについても自園に置き換えて考察してきたものの、安全管理意識には課題がありますので、今後もヒヤリハット事例の収集に努め意識向上に役立てていきます。
- 災害時の職員体制や役割分担について再確認し、様々な場面や時間を想定して避難訓練、消火訓練を（月1回）行いました。また、消防署立会いの下、総合避難訓練も（年1回）行っています。
- 災害時特に地震に備えて、園長、調理員を中心に備蓄品の点検・整備を行い、園児引渡し表を保護者と確認し、非常持ち出し袋も新たに購入し点検を行いました。（月1回点検）。
- 大規模地震に備えて、松山市に老朽化している園舎や構造物の安全性についての耐震診断・点検の要望をしていますが実施されていません。危険箇所については補修をしてくれていますが、これからも安全性確保に向けて具体的に要望をしていきます。
- 園児に交通安全指導を（月1回）実施し、交通安全対策担当による交通安全教室も（年1回）実施しています。西門から駐車場までの移動時、保護者が十分注意を払っていないことが多く、安全確認するように保護者に再三、注意喚起し職員が出て指導もしています。
- 園長を中心に担当職員と「危機管理マニュアル」の見直しをしていきました。マニュアル等については、全職員に周知し安全管理に努めていますが、さらに見直し等が必要です。
- 「保健マニュアル」の見直しを看護師と共に進め、保健指導も毎月1回実施しその中で手洗い指導も行いました。また、感染症流行の前に嘔吐処理についても看護師と共に手順確認をしました。
- MACネットシステム登録の重要性について保護者全員に周知し、非常災害時や感染症発症状況等について情報配信を積極的に行いました。
- 地域の防災訓練（年2回）に参加し、地域の自主防災機関と連携しています。今後、非常災害時の協力依頼も積極的にしていきます。
- 小野交番連絡協議会（年3回）に参加し、地域の危険箇所の確認をすると共に、情報交換時に保育園の取り組みも伝えることで協力を求め、安心安全につながるようにしています。

⑪休日保育

- 日曜、祝日の休日に就労のため保育が必要な子どもを対象に休日保育を行い、延べ352人の利用がありました。子どもが安心して過ごせるように一日の流れを作成し、家庭的な雰囲気の中で保育を行いました。

8：00～18：00 （正規職員1名・パート1名で対応します）

⑫その他

- 子育て支援の保育用品・絵本などを追加購入しています。